

曳山人形外題解説

曳山名	人形場面	人形作者	囃子・踊り	人形場面解説	責任者
1 川原町	菅原伝授手習鑑 車引之場 藤原時平 梅王丸	広目屋	角館お山ばやし 扇 栄 会	梅王丸と桜丸の君主である菅承相を流罪とした左大臣時平。時平が吉田神社へ参詣するために通ると聞いた梅王丸は今こそ時平に返報と、やってきた時平の牛車を襲う。だが時平付きの牛飼いの松王丸が二人を阻む。お互いに牛車を曳き合ううちに牛車は大破し中から金冠白衣の時平が姿を見せ「ヤア時平に向かい推参なり」とくわつと睨んだその眼力に二人は動けなくなる。	渡部 大 青柳 宗康 渡邊 克徳 辻 瞬也
2 北部	大江山酒呑童子 大江山の鬼神 平井左衛門尉保昌	北部丁内 若 者	上松木内 昇 風 会	都に大江山の鬼神が夜ごと出没し、娘達をさらっていった。帝は源頼光を召しだし、鬼討伐を命じる。源頼光は平井保昌や四天王らと大江山へ潜入する。鬼神は童子の姿をして酒を好むことから酒呑童子と呼ばれていた。熊野権現から賜った神酒を勧め、童子はこれ呑むと酔いがまわり、効があらわれた。寢床に攻め入ると鬼神が姿を現し戦いが始まるが、神酒には抗えず、通力を失った鬼神はどめを刺された。	鈴木 昌幸 遠藤 元 武藤 和也
3 山谷根	楠木流 千早の檄城	広目屋	徳 月 会	一三三一年、後醍醐天皇による倒幕計画が発覚すると、天皇は笠置山に挙兵する。楠木正成はこれに呼応しわずか一〇〇〇人ほどの軍勢を率い山城千早城にて籠城した。幕府軍は一〇〇万とも言われる大軍で容易に千早城を包囲したが、知将正成の天賦の才がここに開花する。奇策を用いて幕府軍を翻弄し、ついには戦いに勝利する。千早城の勝利は倒幕の檄として世に示され、鎌倉時代は幕を閉じるのであった。	高橋 大 草薨 拓也 八柳 健太
4 横町	源平盛衰記 壇ノ浦の合戦	横町若者	角館山本組	清盛が平氏の棟梁を継承して間もなく、保元の乱が起こり、平氏と源氏も、後白河院・崇徳院それぞれの陣営に別れた骨肉の戦いの末、勝利して権力を得た後白河院から、敗北した崇徳院方についた一族の処断を強いられる結果に終わる。乱後、実権を握った信西と組んで順調に出世する清盛に対し、冷遇される義朝は不満を募らせ、遂に反信西派の誘いに乗って行動を起こす。平氏と源氏、決着の時が迫っていた。	伊藤 大 三浦 保 中野 誠 黒澤賢太郎
5 上新町	平治の乱 六波羅合戦	萬谷流 上新町 若 者	おやまばやし 清 友 会	一条天皇は夢の告げに従って、宗近に剣を打てとの勅命を下す。良い相槌がないのに悩んだ宗近は、決心して稲荷明神に参詣する。そこに童子が現れ、勅命の下ったことを言い当て、様々な剣の威徳を語り、支度して、自分を持つようにつけ姿を消す。宗近は従い壇を飾り、神に祈った。やがて稲荷明神の神霊が現れ、宗近と共に刀を打つ。そして名剣「小狐丸」が完成した。出来上がった剣を勅使に捧げ、明神は雲に乗り帰って行った。	藤枝 寛 小林 道春 叶 孔河 高橋 寿史 山口 和就 田口 吉輝
6 中央通り	小鍛冶 三条小鍛冶宗近 稲荷大明神	広目屋	奏雅扇舞会	乱暴者の弁慶は、千本の太刀を奪おうという悲願を立て、道行く人を襲っては太刀を奪い取り九九九本までになった。そして、あと一本というところで、五条大橋を笛を吹きながら通る牛若丸と出会う。弁慶は牛若丸に襲いかかるが、牛若丸は欄干を飛び交い、最後は返り討ちに遭ってしまう。降参した弁慶は、その後牛若丸の家来になったという。	荒木 大輔 加藤 寛之 大柴 和正 谷藤 勝昭
7 七日町	義経記 五条大橋 武蔵坊弁慶 牛若丸	小 松	わらび座	近江の三井寺では鐘供養が行われている。そこへ藤娘が鐘を拝ませて欲しいと現れ、酒宴をしていた外方は舞を所望する。藤娘は舞を始めるが、いつのまにか消えてしまい、今度は鷹匠が現れる。その後、犬と座頭、いなせな船頭が現れてそれぞれ踊る。再び藤娘が現れるが、突然落ちた鐘の中に姿を消す。しかし、弁慶が祈ると鐘から大津絵の鬼が現れ、駆けつけた矢の根の五郎が祈り伏せるのだった。	荒木 大輔 川越 貴文 佐藤 直也 安藤 雄介
8 西勝楽町	桔梗旗揚 安田作兵衛 森 蘭丸	文 峰	秋 月 会	領主として備前国藤戸に着任した佐々木盛綱の前に、藤波という老婆が現れる。一年前の藤戸の合戦で、浅瀬を教えてくれた漁夫を無情にもその場で殺した盛綱。藤波はその若い漁夫の母だった。息子を返せと涙ながらに訴える藤波に、盛綱は心から詫言、漁夫の靈魂を慰めようとする。そこへ怨念のため悪龍となった漁夫の霊が襲いかかるが、無心に祈る盛綱の姿を見て怒りも解け、漁夫の霊はついに成仏する。	藤川 裕 羽根川 和行 佐藤 輔 藤川 輔
9 本町通り	大津絵道成寺 矢の根の五郎	広目屋	嬉 遊 会	明朝の復活のため、台湾に渡った「和藤内」とその「両親（老一官夫婦）」一行は和藤内の姉「錦祥女」の夫「甘輝」が治める獅子ヶ城にたどり着くものの、楼門の警護は対面を許さなかった。門前の騒ぎを聞きつけ楼門に登った錦祥女は、和藤内との対面を果たす。荒事の代表格、和藤内の勇ましさと、錦祥女の凛々しくも優しい美しさが光る、歌舞伎ならではの名場面。	鈴木 穰爾 大石 克寿 糸井 健作
10 駅通り	昇龍哀別瀬戸内 佐々木盛綱 藤戸の悪龍	広目屋	愁 明 会	豊臣秀吉の家臣として仕えた加藤清正。文禄・慶長の役で朝鮮へ出征し、数々の武功を挙げる。清正の軍勢が、朝鮮の大きな山の麓に陣営をかまえていたある日の夜。山に住んでいる大きな虎が現れ、軍馬に襲いかかり、翌日には清正の小姓・上月左膳もかみ殺されてしまう。怒った清正は、山狩りで虎を見つけると一本槍で襲撃。見事に退治し敵討を果たす。	鈴木 穰爾 大石 克寿 糸井 健作
11 駅前	国性爺合戦 獅子ヶ城の場 和藤内 錦祥女	萬谷流 駅前若者	角館町 飾 山 囃子 会	戦国時代の一五七〇年、琵琶湖北西長浜で朝倉浅井連合軍と織田徳川連合軍との姉川の合戦が始まった。序盤は、朝倉浅井勢が優勢であったが、徳川家臣勇将の本多平八郎忠勝が奮戦する。その忠勝に一騎打ちを挑んだのが、朝倉家臣豪傑の真柄十郎左衛門直隆であった。両者戦いは、決着がつかず後に姉川の戦いの伝説となった。	藤原 隆志 渡邊 亘 下田恒太郎
12 菅沢	大江山鬼退治 坂田金時 酒呑童子	菅沢若者	徳 月 会	一〇〇〇年頃、京の都で姫が次々とさらわれるという事件が発生する。陰陽師・安倍晴明によつて、大江山に住む鬼、酒呑童子の仕業ということがわかる。時の一条天皇は源頼光に酒呑童子の討伐を命ずる。源頼光は四天王である渡辺綱、坂田金時、卜部季武、碓井貞光らを従え大江山へ向かう。四天王のひとり坂田金時は酒呑童子を見つけ、今まさに討伐しようとして飛び掛るのであった。	荒川 大 佐藤 信一 木村 幸誠
13 桜美町	武勇の誉 猛虎一騎討 加藤清正	萬谷流 桜雅会	飾 山 囃子 会	正月の曾我の里で五郎は家で父の敵、工藤祐経を討つ準備のため、大きな砥石で矢の根を研いでいた。そのうち五郎が寝てしまうと、夢の中に兄十郎の生霊が現れ「今、工藤の館に捕まっているから助けに来てくれ。」と言ひ残り消えてしまう。五郎は跳ね起き通りかかった馬子から奪った馬に乗り、大根を鞭にして十郎を救いに駆け出す。	加藤 美貴 菅原 亮太 坂本 麻世 傳農 朋也
14 西部	勇将・豪傑 姉川一騎打ち 本多平八郎忠勝 真柄十郎左衛門直隆	文 怜	秋 月 会	戦国時代の一五七〇年、琵琶湖北西長浜で朝倉浅井連合軍と織田徳川連合軍との姉川の合戦が始まった。序盤は、朝倉浅井勢が優勢であったが、徳川家臣勇将の本多平八郎忠勝が奮戦する。その忠勝に一騎打ちを挑んだのが、朝倉家臣豪傑の真柄十郎左衛門直隆であった。両者戦いは、決着がつかず後に姉川の戦いの伝説となった。	小松 真徳 青柳 博昭 石郷岡 広之 高橋 光
15 下岩瀬町	歌舞伎十八番 矢の根 曾我五郎	廿 町 如 月 会	藤 原 組	賤ヶ岳の戦いは天正十一年四月、賤ヶ岳付近で起きた羽柴秀吉と柴田勝家の戦いである。敵同士となったが、後に戦国最強と謳われた才蔵と、才蔵最後の主君となる若き日の正則の出会いの一場面である。	清水 政伸 佐藤 祐樹 坂本 純平
16 岩瀬	邂逅 賤ヶ岳の戦い 可児才蔵吉長 福島市松	広目屋	祭 喜 会	舞台は鶴岡八幡宮、皇位を我がものにしてしようと目論む悪人、清原武衡が加茂次郎義綱ら、罪の無い善男善女を捕える。難くせをつけ、家来に命じて一同を斬り殺そうとするまさにその時「しばらく」と大声をかけ、鎌倉権五郎景政が現れる。超人的な力で悪人どもを斬り倒し、意気揚々と花道を引き揚げていく。	高橋 大樹 菅原 大樹 鈴木 淳
17 東部	歌舞伎十八番 暫 鎌倉権五郎景政	萬谷流 東部若者	東 部 若 者	天正三年、武田勝頼は一万五千の兵を率いて甲府を出立し三河長篠城を包囲した。長篠城主、奥平貞昌の救援を求める声に応じた織田信長は三万五千の軍勢を率い長篠設楽原にて武田軍と激突。武田四天王の一人、山県昌景は死を決し、朱塗りの甲冑をまとった精鋭部隊「赤備え」を率いて銃弾の飛び交う中、刀を振るい敵陣に突撃する。	鈴木 淳 高橋 徹 黒澤 淳 山本 良平
18 大塚	長篠設楽原の合戦 徳川家康 山県昌景	大塚若者	角館飾山囃子 保 存 会		